

# 平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

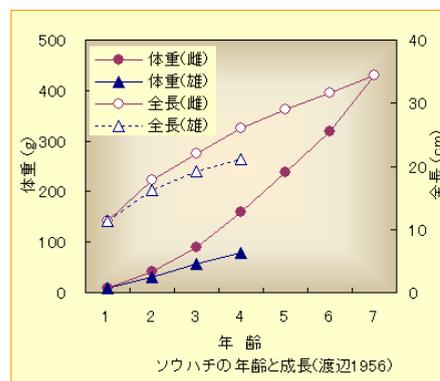
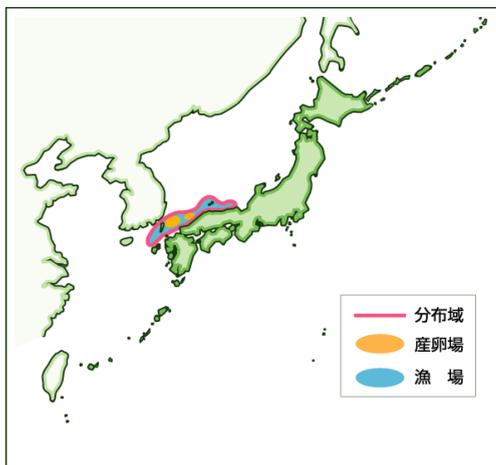
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



## 生物学的特徴

- 寿命： 7歳  
成熟開始年齢： 雄2歳、雌3歳  
産卵期・産卵場： 冬～春季（1～3月）、対馬周辺海域および島根県浜田沖  
索餌期・索餌場： 夏～秋季、日本海西部  
食性： エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い  
捕食者： エビジャコ類（幼稚魚期）

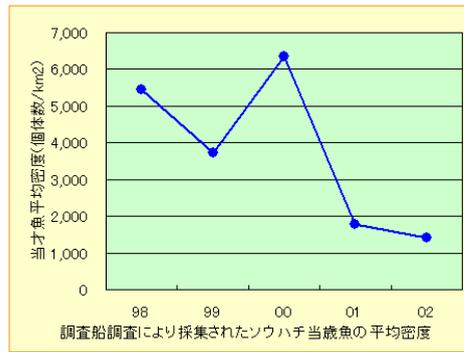
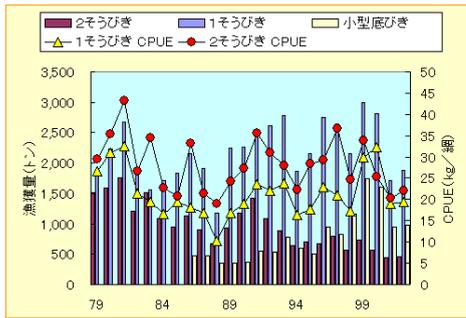


## 漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖合底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびきの漁場は島根県以東の海域が中心、2そうびきは対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

## 漁獲の動向

過去20年間の沖底の漁獲量は1,900～4,400トンで変動が大きいのが特徴である。小底の漁獲量(一部推定値を含む)については、1986年以降の統計では400～1,700トンで、1998年以降は急増してきた。しかし、2001年と2002年の沖底及び小底の漁獲は低調に推移した。2002年に日本の200海里内において韓国漁船により1,500トンのカレイ類が漁獲されているが、ソウハチがどの程度を占めるかは明らかでない。

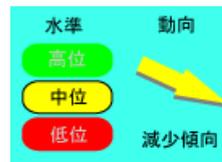


## 資源評価法

漁獲統計資料に基づき、沖底と小底の漁獲量、CPUE(kg/網)、資源量指数、有効努力量(網数)、現存量指標値および当歳魚の密度の経年変化により資源評価を行った。

## 資源状態

2001年と2002年のCPUEは1そうびき沖底、2そうびき沖底ともに20kg/有効努力前後と低調に推移した。2001年と2002年の資源量指数についても1そうびき沖底、2そうびき沖底ともに低調に推移した。2002年の現存量指標値については沖底CPUEの変動と異なり、増加傾向を示した。調査船調査による当歳魚の密度は1998～2000年の3,700～6,000個体/km<sup>2</sup>から2,000個体/km<sup>2</sup>に減少した。以上のことから、2000年～2001年に減少傾向に転じ資源は中位ながら、減少傾向にあると判断した。



## 管理方策

1989～2000年の漁獲水準に回復するためには、やや漁獲を弱めることが望ましい。漁獲量が減少した2001、2002年の平均漁獲量をCaveとし、平均漁獲量×0.8をABClimit、不確実性への配慮からABClimit×0.8をABCtargetとした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	26百トン	0.8Cave2-yr	-	-
A B C target	21百トン	0.8ABClimit	-	-

## 資源評価のまとめ

- 2001年と2002年は主要3漁法の漁獲量、CPUE、資源量指数および当歳魚の加入量が低調に推移した
- 2000年と2001年を境に本資源が減少傾向に転じた可能性がある

## 資源管理方策のまとめ

- 漁獲量が減少した2001、2002年の平均漁獲量×0.8をABClimit、不確実性への配慮からABClimit×0.8をABCtargetとした
- 外国漁船による漁獲の把握が必要
- 若齢魚の保護が必要

資源評価は毎年更新されます。